

近畿大学農学部

緑友会会報

第24号

発行所

近畿大学農学部緑友会
広報・編集委員会
編集委員長 福田 泰久
631-8505 奈良市中町3327-204
TEL: 0742 (43) 1511
http://www.nara.kindai.ac.jp/

会員の皆様と緑友会とのつながりについて

緑友会会長 松田 克礼



緑友会会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、皆様方には平素から緑友会に格別なご支援とご鞭撻を賜り厚くお礼申し上げます。

わたくしは仕事柄、各地の試験場を訪問し、大学では入手できない情報を教えてもらっています。先日訪問させて頂いた試験場では、巨大な「ドローン」が、極度の低空飛行で殺虫剤を散布していました。周りをみても操縦している人は見当たりません。しばらくすると、ドローンが充電場所（ドローンポート）に戻ってきました。充電が完了すると自分で浮き上がり散布を再開。やがて、農薬が少なくなつたのか、薬液補充場所に戻ってきて、自動で薬液を補充。散布を中止した地点まで戻り、そこから散布を再開しました。現在、このドローンの価格は500万円強ということでした。温室では暖房用の温湯パイプをレールにしてトマト収穫ロボットが働いていました。こちらは試験運転中ということでしたが、もうすぐ、夜間でも無人で収穫

作業が可能になるそうです。

長い歴史をもつ「従来の農業」は、熟練農業者の経験にICTを融合させた「新しいスマート農業」へ、移り変わると考えられています。このハイスピードで動く社会の流れとともに、緑友会にも迅速な動きが要求されると想定されます。そこで、緑友会の「農学部から独立したホームページ」の開設を検討したいと思っています。そこには、各研究室の近況、各クラブからの連絡、活躍されているOBの

最後にになりましたが、皆様方の益々のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。
ご意見等のあて先は ryokujin@nara.kindai.ac.jp です。よろしく願ひします。

農学部の新しい時代への船出

農学部長 江口 充



緑友会の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素より農学部発展のため、多大なご支援とご鞭撻を賜り厚く御礼申し上げます。

おかげさまで近畿大学の受験者総数も6年連続で日本一となりました。農学部については農学系の人気が低迷すると

農学研究科の近況

大学院農学研究科長 川崎 努



れた研究活動に邁進しております。緑友会からご提供頂いております学位論文の優秀発表を表彰する緑友会賞も定着し、大学院生にとって研究活動における重要なモチベーションになっていきます。

さて、近畿大学におきましては、2015年の国連で開かれたサミットの中で決定されたSDGs（持続可能な開発目標）を意識した研究を推進しています。特に、SDGsの17の目標のうち、15に関しては農学研究科の研究内容と密接に関係しており、「農

として昨年4月に設立されました近畿大学アグリ技術革新研究所も何と1年間の教育研究活動を行ってまいりました。中島みゆきさんの「糸」という歌があります。縦の糸はあなた、横の糸は私、織りなす布は・・・という歌詞です。農学部では多種多様な素晴らしい研究が行われています。ただ、個々の研究は素晴らしいのですが、他の分野との連携が十分だとは言えません。農学部6学科での様々な研究が縦の糸だとすると、アグリ技術革新研究所は横の糸として機能させ、できるだけ農学部内の教育・研究の連携を図り、より良い農学部へと進化するきつかけにして行きたいと考えております。

緑友会の皆様には、本学の中心学部のひとつとして躍進を続ける農学部の現状をご理解いただき、さらなるご支援を切にお願いいたします。最後になりましたが、皆様のご多幸とご健康を祈念し、挨拶とさせていただきます。

学校法人近畿大学 創立100周年

事務長 伊藤 博樹



奈良キャンパスに移転し、現在に至っております。

【参考】

昭和23年	臨海研究所開設
昭和27年	農芸化学研究所設置
昭和32年	湯浅農場開設
昭和33年	生石農場開設
昭和33年	農学部設置認可（農学科・水産学科）
平成元年	奈良キャンパス
現在	移転
	農業生産科学科、水産学科、応用生命化学科、食品栄養学科、環境管理学科、生物機能科学科（バイオサイエンス学科から名称変更）の6学科。大学院5専攻。

学」は人類の生活に直結した、非常に重要な研究分野であると言えます。このようなSDGsを考慮し、昨年、近畿大学アグリ技術革新研究所が発足し、産官学連携や企業との共同研究、ならびに先駆的な基礎研究を強力にバックアップする組織体制が構築されました。その効果もあり、大学院生による素晴らしい研究成果が多くのメディアに取り上げられ、さらに大学院生や教員が各学会等において表彰されております。これからも、大学院生を中心にして注目される研究を展開し、皆様へ良いニュースをお届けしたいと思います。今後とも、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようどうぞよろしくお願いいたします。

平成30年度 緑友会賞

博士後期課程

専攻	氏名	論文題目
応用生命化学専攻（最優秀賞）	久後 裕 菜	Studies on the mechanisms underlying rupture of abdominal aortic aneurysm and the preventive methods by functional food factors (腹部大動脈瘤の破裂機構と機能性食品成分による予防法に関する研究)
環境管理化学専攻（優秀賞）	入 口 友 香	二次的接触帯における遺伝的集団構造の比較からみた日本産メダカ2種の関係性

博士前期課程

専攻	氏名	論文題目
農業生産科学専攻	一 樋 明日香	マンゴー 'Irwin' の果皮着色に関与する転写調節因子の解析
	藤 原 郁 也	東南アジア在来ベゴモウイルスTYLCKaVはトマトのTy-3a抵抗性を打破する
水産学専攻	羽 多 宏 彰	比較解剖からみたウナギ属魚類の系統分類に関する研究
	高 松 真 也	魚類精子の凍結保存時の冷却速度が解凍後の運動率に及ぼす影響
応用生命化学専攻	高 松 元 紀	TcGLIP阻害剤の設計
	宮 本 智 絵	腹部大動脈瘤の進展・破裂にみられる性差に関する研究基盤の構築と食生活の影響評価
環境管理化学専攻	森 田 圭 吾	国内産ドジョウ種群に散在するクローン集団の父系起源の推定
バイオサイエンス専攻	瀬 古 友 梨 恵	植物の形態形成に関与する転写因子PLATZ7および8の機能解析
	市 原 沙 也	SmCHD1欠損エピプラスト幹細胞におけるX染色体不活性化

緑友会会員の皆様にお願ひがございます。
近畿大学が創立100周年を迎えるにあたり様々な記念事業が企画されています。その企画の一つに「学校法人近畿大学創立100周年記念事業募金」があります。農学部においても事業の一つとして「多目的教育棟（仮称）」の建設計画があり、キャンパスの施設設備の整備を進めてまいります。

この多目的教育棟（仮称）は①学生の主体的な活動支援（教育・研究・課外活動）の場、②教育・研究の基盤形成

の場③文理、国籍、キャンパスの垣根を越えた多文化共生の場④奈良キャンパスだからこその未来、自然豊かな環境の中での精神的なやすらぎの場、⑤地域に根ざした学内外の人々が親しみと誇りが持てる場、を指して、正に多目的に利用する建物となります。是非ともこの趣旨にご賛同いただき、母校の発展を応援いたしますようお願いいたします。



多目的教育棟パース写真

*記念事業サイト

アドレス

https://00h.kindai.ac.jp



当学科では、作物学研究室の廣岡義博先生が助教から講師に昇格されました。園芸療法士については、12名の卒業生と1名の社会人（本学科の卒業生でもあります）が資格を取得され、アグリビジネスマイスターは39名の現4年生が認定証を授与されました。マイスターコースは生産から加工・流通までを広く学べ、大石卓史准教授の主導により、平群町と日本酒やジェラート、スイーツを毎年共同開発しています。農の入り口モデル事業（奈良県受託研究）では、野々村照雄教授がICTを用いたハイテク「なら近大農法」でメロンやミニトマトを生産し、メディアに多数取り上げられました。今後とも緑友会の皆様のご支援・ご協力を切にお願い申し上げます。



農生産科学科
学科長
林 孝洋

学科の近況



水産学科

学科長
石橋 泰典



応用生命化学科

学科長
白坂 憲章



当学科では、数年前からできるだけ若手で実績のある新任教員を優先的に迎えるようにしました。現在、それらの先生方は、水産学の様々な分野で活発な研究・教育を展開し、学科の大きな力になっています。また、水産研究所の先生方も年々増えるようになり、最近ではニホンウナギの完全養殖に世界で初めて成功した田中秀樹先生が加わって活動が益々拡充しています。本年度も、水産学科、水産研究所の成果が、マスコミに多数取り上げられており、クロマクロに続く新しい研究と教育の充実に積極的に取り組んでいます。卒業生の皆様には、今後とも、ご支援、ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

当学科では、生命資源化学研究室の山下光明先生が、この4月より准教授に昇任されました。研究活動では、生物制御化学研究室内の伊原誠准教授が日本農芸化学科奨励賞、応用細胞生物学研究室内の財満信宏准教授が日本栄養・食糧学会奨励賞を受賞されるとともに、多くの大学院生が学会発表において優秀発表賞などを受賞するなど、学科の研究業績が高く評価されました。また、奈良県と共同プロジェクトでの柿ワインの開発をはじめとする産官学の連携事業も進んでおります。今後も教員一丸となって研究・教育に邁進してまいりますので、卒業生の皆様からのためめご支援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



当学科では、本年度から公衆栄養学研究室に森島真幸講師、生体機能学研究室に南朝子契約助手を新たにお迎えしました。一方、3月末に、上田茂登子講師、松田邦子特任講師、安澤俊紀契約助手、寺本陽美契約助手が退職されました。第33回管理栄養士国家試験には、57名が受験し、56名が合格しました（合格率は98.2%）。管理栄養士養成課程（新卒）の全国平均の合格率は、95.5%。当学科では、食（栄養、おいしさ、生体機能）を通して、人々の健康の維持、増進に貢献できる研究成果をあげると共に、研究を通して社会に役立つ人材を育成してまいります。今後とも緑友会会員の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

当学科では、学科発足当初からご尽力いただいた奥村博司准教授が平成30年度末で退職されました。奥村准教授の後任として、井上昭夫教授が4月に着任され、里山生態学研究室の所属となりました。井上教授は森林管理学が専門で、フィールド調査、統計解析、数理モデリングなどの多様な手法による森林研究を進めてこられました。また保全生態学研究室の早坂大亮先生が講師から准教授に昇格されました。学科発足時から取り組んでいる里山プロジェクトや奈良県等との地域連携活動も新たな局面を迎え、教員一同、学科のさらなる発展を目指してまいりますので、緑友会の皆様のためめご支援を引き続き賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

食品栄養学科

学科長
米谷 俊



環境管理学科

学科長
鶴田 格



学科研究室・教員

農生産科学科

- 作物学 (飯嶋 盛雄・山根 浩二・廣岡 義博)
- 育種学 (種坂 英次・柴山 拓司)
- 園芸植物学 (神崎 真哉・小枝 杜太)

- 植物感染制御工学 (松田 克礼・野々村 照雄)
- 昆虫学 (香取 郁夫・米谷 衣代)
- 農業経営経済学 (増田 忠義・大石 卓史)
- 花卉園芸学 (細川 宗孝・林 孝洋)

水産学科

- 水産増殖学 (太田 博巳・澤田 好史・石橋 泰典)
- 水産生物学 (小林 徹・小林 靖尚・渡邊 俊)
- 水族環境学 (江口 充・永田 恵里奈・谷口 亮人)

- 漁業生産システム (光永 靖・鳥澤 眞介)
- 水産利用学 (塚正 泰之・安藤 正史・福田 隆志)
- 海棲哺乳類学 (酒井 麻衣)
- 水産経済学 (多田 稔)

応用生命化学科

- 応用微生物学 (上垣 浩一・倉田 淳志)
- 食品微生物学 (白坂 憲章・福田 泰久)
- 応用細胞生物学 (森山 達哉・財満 信宏)

- 生物制御化学 (松田 一彦・森本 正則・伊原 誠)
- 生命資源化学 (飯田 彰・澤邊 昭義・山下 光明)
- 森林生物化学 (板倉 修司・梅澤 究)
- 学科共通 (吉岡 佐知子)

食品栄養学科

- 栄養教育学 (川西 正子・明神 千穂)
- 臨床栄養学 (木戸 慎介)
- 公衆栄養学 (伊藤 龍生・森島 真幸・蒲 尚子)

- 給食経営管理学 (富田 圭子・安岡 美穂)
- 生体機能学 (上嶋 繁・南 朝子)
- 栄養機能学 (米谷 俊・竹森 久美子・赤田 茉佑子)
- 食品化学 (渡辺 克美)

環境管理学科

- 里山生態学 (井上 昭夫・河内 香織)
- 水圏生態学 (ジン タナンゴナン・松沼 瑞樹)
- 保全生態学 (北川 忠生・早坂 大亮)

- 環境化学 (城嶋 透・森 美穂)
- 森林資源学 (松本 光朗・澤島 拓夫)
- 国際開発・環境学 (八丁 信正・松野 裕)
- 環境政策学 (鶴田 格・前掲 光弘)

生物機能科学科

- 植物分子生理学 (田茂井 政宏・佐古 香織)
- 植物分子遺伝学 (川崎 努・山口 公志)
- 動物発生工学 (加藤 容子・谷 哲弥・岡村 大治)

- 生命情報工学 (武田 徹)
- 動物分子遺伝学 (佐渡 敬)
- 分子生物学 (篠原 美紀・加藤 明宣・松崎 健一郎)
- 生物有機化学 (北山 隆・大沼 貴之・柏崎 玄伍)

教養・教育基礎部門

木村 正則・赤羽 仁志・西垣 佐理・ロバート ショーン シェリダン

太字：新研究室、新任



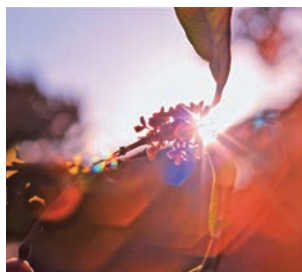
当学科では、長年にわたりご尽力頂いた、重岡茂教授が平成31年3月をもちまして退職されました。4月には、バイオサイエンス学科から生物機能科学科に名称が変わり、佐古香織助教と松崎健一郎助教が着任され、新たな体制がスタートいたしました。佐古先生は、塩害に対する植物応答の分子メカニズムを、松崎先生は遺伝的組換えの分子メカニズムの研究に取り組まれています。学科としては、これまでのバイオサイエンス学科で培ってきた高い研究力を礎に、生物機能科学科では魅せる研究を目指して、学部



生物機能科学科

学科長
篠原 美紀

職なされました。4月には、バイオサイエンス学科から生物機能科学科に名称が変わり、佐古香織助教と松崎健一郎助教が着任され、新たな体制がスタートいたしました。佐古先生は、塩害に対する植物応答の分子メカニズムを、松崎先生は遺伝的組換えの分子メカニズムの研究に取り組まれています。学科としては、これまでのバイオサイエンス学科で培ってきた高い研究力を礎に、生物機能科学科では魅せる研究を目指して、学部



生・大学院生も巻き込みながら大きなムーヴメントを起こしていきたいと考えております。卒業生の皆様方にはこれまでと変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。

新任の挨拶

食品栄養学科 生体機能学研究室
契約助手 南 朝子

本年度4月より食品栄養学科生体機能学研究室に契約助手として着任いたしました。南 朝子と申します。3人目の娘が大学に入った翌年に、京都女子大学家政学部食物栄養学科に入学して再び学び、卒業後は同志社大学理工学部の実験助手として1年を経た後、近畿大学にご縁を頂いてお世話になる事となりました。家族や友人の病気に直面してきた三十数年、食と健康について試行錯誤し、ライフワークとして参る中で疑問や戸惑いといった事が大学で学び直す動機ではありましたが、ここで食品栄養学及び生体機能学に関われることは正に本望であり、不思議な心持でいます。とはいえ、何ができると申せません。少なからず志を抱いて学生として過ごした4年間で、その中で現役世代との交流、そして親として子達と相對してきた30年間を通じて私にもできる事があると自負しています。

大学の助手の仕事は2年目であり、未熟で力不足な上、不手際も多く戸惑うばかりです。日々を積み重ねて行けるよう精進して参りますので、皆様には宜しくご指導ご鞭撻のほど、心よりお願い申し上げます。

食品栄養学科 公衆栄養学研究室
講師 森島 真幸

本年4月より、食品栄養学科公衆栄養学研究室に着任致しました森島真幸と申します。新しい年号「令和」は万葉集から引用されたそうですが、私の名前「真幸（まさき）」も万葉集で詠まれている和歌から引用されました。令和元年に近畿大学に着任したことに何か運命的な縁を感じております。私は徳島大学大学院栄養学研究科で学位を取得後、大分大学医学部、米田下レクセル大学、徳島大学病院での勤務を経てこちらに参りました。これまで、「何をどう食べたらヒトは健康を保てるか」という問いへの答えを探すために、生活習慣病の発症や重症化を予防する因子を解明するための研究を進めてまいりました。「食」と疾病との関連性を科学的に明らかにするために栄養疫学研究の重要性が提唱されつつありますが、未開拓の領域も多くあります。今後も、「食」を通して身近な問いを1つずつ解き明かしていくために、学生と共に「Serendipity」はあると信じて研究に邁進し、社会で活躍できる人材の育成にも励んでまいりたいと思っております。緑友会会員の皆さまのご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

環境管理学科 里山生態学研究室
教授 井上 昭夫

平成31年4月1日付けで、環境管理学科里山生態学研究室に着任しました井上昭夫です。高知県の出身で、九州大学大学院を修了後、鳥取大学で10年、熊本県立大学で12年の教員生活を経て、現職に至っています。

私の専門は森林科学（林学）です。卒業論文作成時より、針葉樹の人工林や竹林をフィールドとして、森林の生態と管理に関する研究を行ってきました。近年は、物理学や工学との異分野融合により、軽くて丈夫な竹の仕組みを明らかにし、その知見を「ものづくり」に活かそうとする共同研究にも取り組んでいます。近畿大学農学部では、これまでの国立大学での20年以上にわたる勤務の経験を活か

しながら、森林・里山をフィールドとした環境管理に関する教育を行い、これからの森林・林業の発展に貢献しようという人材を育成していきたいと考えています。緑友会の会員の皆さまにおかれましては、ご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。

生物機能科学科 植物分子生理学研究室
助教 佐古 香織

平成31年4月1日付けで生物機能科学科植物分子生理学研究室に助教として着任いたしました佐古香織と申します。私は北海道大学にて学位を取得した後、日本学術振興会と理化学研究所の特別研究員を経て近畿大学でお世話になることになりました。

動くことのできない植物は高温・低温・塩害など様々な環境ストレスに曝されています。私はこれまでに化合物を用いて植物の環境ストレス耐性、特に耐塩性を引き出す研究に取り組んで参りました。今後は植物の環境応答メカニズム解明に取り組むとともに、環境ストレス耐性肥料の開発にも取り組んで参りたいと考えております。また、研究のみならず、講義や卒業研究を通じて社会に貢献できる人材の育成に取り組んでいきたいと考えております。至らない点が多々ございますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

生物機能科学科 分子生物学研究室
助教 松寄健一郎

平成31年4月1日付けで生物機能科学科の分子生物学研究室に助教として着任致しました松寄健一郎と申します。大阪大学理学研究科で学位を取得後、英国フランシスクリック研究所でのポストドク、大阪大学での助教を経て参りました。前職では、DNA間の組換えの分子メカニズムを明らかにする研究を行っていました。DNAの組換えは、ゲノム編集、品種改良、遺伝子治療など幅広い応用が期待できる分野であり、今後は、より実践的な組換えの研究を行っていくつもりです。また、これまでの研究に加え、生活環境下放射線や食品などにおけるDNAの傷と修復に関わ

る研究を展開していきたいと考えております。研究を通して、新しい分子メカニズムの発見と応用を実践できるように人材を育成していきたいと思っております。教育と研究の両方に精一杯取り組んでいきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

新 旧

退任のご挨拶

前食品栄養学科 特任講師
松田 邦子

緑友会会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

近畿大学には昨年度1年の短い間ですがお世話になりました。この間、不慣れな私に温かくご指導ご支援頂きました皆様には感謝申し上げます。これまでとは違った環境で勤務させて頂き、貴重な経験をさせて頂きました。外から見ているのとは違い、教育と研究だけではなく学生の支援、雑務など、先生方のご苦勞を目にし、頭の下がる思いです。これから私は近畿大学での経験を活かし、現場で働く管理栄養士が十分に力を発揮し、輝いて活動できる社会の実現に微力ながら手伝いできたらと思っております。そのため、大学の専門的な知識や技術の支援が不可欠となり、今後ともご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。最後になりましたが、近畿大学農学部ならびに緑友会の皆様の益々のご活躍、ご発展をお祈りしております。

私は、2014年4月から5年間、食品栄養学科契約助手として勤務させて頂きました。在職中、農学部の教職員の皆様には一方ならぬご厚情を賜りましたことを心より感謝いたします。農学部での5年間で、大学における研究・教育の重要性、喜び、難しさなど多くのことを学ばせていただきました。4月からは畿央大学健康科学部健康栄養学科(管理栄養士養成課程)に勤務し、食品栄養学科と同じ管理栄養士養成課程で学生のサポートを行っております。農学部で得られた知識や経験を活かして、教育・研究に携わっていききたいと思っております。今後とも、皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後にになりましたが、近畿大学農学部ならびに緑友会の皆様のますますのご活躍とご発展をお祈りいたします。



退任のご挨拶
前農学部部長 前バイオサイエンス学科教授
重岡 成

緑友会会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。私は、農学部に39年お世話になりました。この間、研究室にて約750名の卒業生と120名の院生(修士、博士課程)、多くの研究員(補助員)と苦業を共に過ごすことができました。そして大学、多くの国プロジェクトや共同研究機関に支えられ、国内外での学会発表、特許取得、論文という研究成果(作品)を皆で協力して創ることができました。毎日、少しでもみが(研)いてきわ(究)める研究に精進し、研究仲間の努力を無にすることなく、多くの作品を世に問い、その過程で学生・院生を教養育て、自分自身も教養育てられました。まさにこれらが一番の、一生の宝物であります。大学人として、このような教育・研究を行うことができたのも、皆様のご支援の賜物であり、心から感謝申し上げます。この4月からは、附属農場長(特任教授)として、本学・農学部の更なる発展のために、微力ながら努力してまいります。何卒、これまで以上に、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。最後にになりますが、農学部がこれまで以上にブランド力(個性化、差別化)を高め、農学部らしさ(アイデンティティ)を発揮していくこと、そして緑友会の皆様方のご多幸とご健康を願ひ、挨拶とさせていただきます。

退任に際して思うこと
前環境管理学科 准教授
奥村 博司

近畿大学農学部にお世話になって25年が経ちました。長くも短い四半世紀でありました。以前の勤務校はなだらかな郊外にあり、今では駅前の複合ショッピング施設やキャンパス通りも出ていますが、当時はキャンパス内に蛇や雉が生息するのどかな自然環境を持つ学校でした。近畿大学の農学部を初めて訪れた時には、それらの環境に負けるどころか、それ以上の自然環境(周りに何もない!)にびっくりしたことを懐かしく思い出しました。

在任中には、学科の再編で非実験系の国際資源管理学科から実験系の環境管理学科への移動も経験しましたが、その間にそれぞれの学科で多くの皆様と関わる事が出来たことは、私にとって大きな財産となっています。残念ながら、諸般の理由で所属研究室が廃止されたことは遺憾の極みであり、研究室の卒業生の皆様には大変申し訳なく思っております。

最後に、皆様へ感謝するとともに、皆様のご多幸を祈って退任の挨拶とさせていただきます。

退任の挨拶

前食品栄養学科 講師
上田茂登子

近畿大学農学部食品栄養学科を卒業して同学科の教員として勤めさせていただき44年間、さらに学生時代を含めまして48年間、ほぼ半世紀近く農学部にお世話になってまいりました。同学科の学生時代は夢に向かって突き進んでいて、当時思い出されることは楽しいことばかりです。勤務してからは、卒業生である以上何とか学部尽力したい思いが強くなり、時には多くの

退任のご挨拶

前食品栄養学科 契約助手
安澤 俊紀

課題もございましたが、その解決に向かい進んでまいりました。退職後半年ほど過ぎましたが、このかけがえのない経験を今後も活かし役立てて、残りの人生の糧にしたいと思

います。現在は、長期に病気で休むこともなく、終えることができ、ほっとしております。

最後にになりましたが、卒業生、教職員の皆様のおかげで定年まで勤めさせていただくことができましたことを御礼申し上げますとともに新しい令和の時代を迎え、皆様のご健康と近畿大学農学部の発展を祈願し、ご挨拶とさせていただきます。

緑友会会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

私は、2014年4月から5年間、食品栄養学科契約助手として勤務させて頂きました。在職中、農学部の教職員の皆様には一方ならぬご厚情を賜りましたことを心より感謝いたします。農学部での5年間で、大学における研究・教育の重要性、喜び、難しさなど多くのことを学ばせていただきました。4月からは畿央大学健康科学部健康栄養学科(管理栄養士養成課程)に勤務し、食品栄養学科と同じ管理栄養士養成課程で学生のサポートを行っております。農学部で得られた知識や経験を活かして、教育・研究に携わっていききたいと思っております。今後とも、皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、皆様へ感謝するとともに、皆様のご多幸を祈って退任の挨拶とさせていただきます。



新入生の夢

私の夢

農業生産科学科

秋岡 寛人

よく耳にする質問で「将来の夢は何ですか?」というものがあありますが、私には今まで明確な「夢」がなく、上手く答えることができない自分にもどかしさを感じながら生きてきました。

私の夢は、養殖業の最先端に立ち漁業生産を支える人材になることです。水産高校に進学した私は、高校3年間で「漁業」という観点から水産を学びました。そこで現在の漁獲量は、資源の枯渇、様々な規制などによってすでに頭打ち状態であり、将来は減少する可能性が高いことを知りました。そのうえで、漁獲生産量を維持・向上させる

私の夢

水産学科

北村 優佳

そんな私にとって、効率的な養殖技術として広く用いられている小割式網生簀の開発やクロマクロの完全養殖など、様々な養殖実績を残してきたこの学校で学べるのが誇りです。

この4年間で、現在世界的に注目されている様々な養殖の知識を身に付け、将来は世界の魚食志向を支える養殖業関係者になりたいです。「誰かがいつかやってくれる」ではなく、「自分が最先端に立って成し遂げてやる!!」そんな高い志を胸に、この学校での勉学に努めたいと考えています。

将来へ向けて

応用生命科学科

横川 美留母

私はまだ、この職業に就きたいという目標は決まってい

ませんが、「人や動物が、薬や食品によって健康を保つ方法を見つけ、商品を生み出す。」そんな仕事したいと思っています。入学した当時は正直、応用生命科学科が何を学ぶのかよく分かっていませんでした。まだ分かっていない事の方が多いのかもしれないですが、生命科学基礎の講義で研究室紹介をしてもらった時に、応用生命科学科は技術を使って付加価値を生み出す分野だと思いました。私はその時々、その場所が必要のある、価値が認められる、「これがあるって本当によかった」と誰かが思ってくれるよ

将来の夢

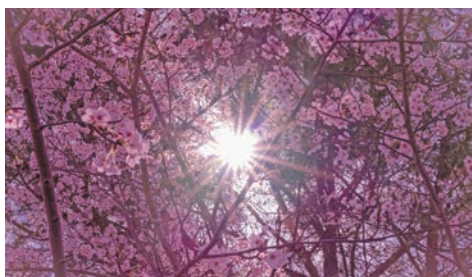
食品栄養学科

後藤 朱音

私は将来病院管理栄養士になりたいです。昔から何か人の役に立つ、感謝されるような仕事につきたいと考えていました。

私が病院管理栄養士になりたい理由は二つあります。

一つ目は、悩んでいる人を笑顔にしてあげたいからです。私はある持病をもっていることで当時はどうしたらこれが改善していくのか、どうしたら自信を持って笑顔で日々を過ごすことができるのか悩んでいました。その時に近畿大学農学部オープンキャンパスに訪れたとき、その持病について研究している場所があったのです。この研究室に行くと、将来私のように悩んでいる人を一人でも助けることができました。二つ目は、病院管理栄養士



うなものを作りたいです。それを達成する為に私に足りないものは、知識は勿論のことですが、積極性です。自分か



ら「やってみよう」と行動することが苦手ですが、誰かの指示を待ただけだと自分から新しいものを作ることはできません。近大は挑戦する機会を多く与えてくれるので、その機会を無駄にせず色々なことに挑戦していこうと思います。

将来の夢

生物機能科学科

福岡 壮太郎

僕はまだ明確な将来の夢はまだ決まっていません。しかし再生医療のことを勉強したいと思い、生物機能科学科に入学しました。近年バイオテクノロジーは、めまぐるしく発展をとげています。iPS細胞の臨床治療の開始やヒト・ブタのキメラ胚の作製が成功したことで、今まで以上に再生医療の分野がさらに発展していくと思われます。しかしまだまだ倫理・技術的な問題点も多く、いかにしてその問題点を解決するかがとても大事だと感じています。そして将来その問題点を解決するお手伝いが出来ればと、強く思っています。そのためにこの4年間で多くの教員の方々からたくさんの知識を学び、そして学科の垣根を越えて出来た仲間からいろいろな考え方を取り入れ、物事をいろいろな視点から捉えられる人間になりたいです。また4年後に誇りを持って卒業できるように、学校行事や部活動にも全力で打ち込んで、多くの仲間とたくさん思い出を作りたいと思います。

の方に憧れを抱いたからです。持病を持っていたので病院に訪れる機会が多く、母が薬局に勤めていたので医療に関わることも多く、さらに父が入院した際、実際に病院管理栄養士の部署があることを知りました。父からの感想で、病

院の食事思ったより美味しかったと言っていて、それが管理栄養士さんのおかげということが分かりました。このように病院食のイメージを変えていく管理栄養士になりたいという憧れを持ちました。これらの経験から、私は将来病院で管理栄養士として働きたいと思っています。

夢の大学生活

環境管理学科

島 竜希

私は、自然と触れあうことが好きで、生き物にも興味があったため、環境管理学科に入学しました。新たに始まった大学生活を満喫したいと思う一方、勉強面においては、文系人間である私には、理系科目の勉強にささかの恐怖を感じています。しかし、大学の醍醐味である「好きなことを主体的に学ぶ」ことが私の原動力となるので、こんな不安は一瞬で吹き飛んでしまふくらいの希望でいっ

環境管理学科での4年間は、

縦と横のつながりを大切に、生態系の保全や持続可能な社会作りなどのさまざまな事柄について、多角的・俯瞰的な目に対応できる人材となるべく、知識の修得、また実学思考の向上に邁進します。最後になりますが、今現在私には明確な夢・ビジョンはありません。その時々自身の感性を信じて、好きなことをただただ追いかけて続けただけの人間です。その個性を大切に、この4年間の大学生活で新たな夢の邂逅を願います。

近大アーマリン

安心・安全・美味しい養殖魚を提供します

近大の魚と配剤の恵み

近畿大学 水産研究所

大阪店
大阪市北区大深町3-1
グランフロント大阪北館6階
TEL:06-6485-7103

ランチ 11:00~15:00 (L.O. 14:00)
ディナー 17:00~23:00 (L.O. 22:00)

銀座店
東京都中央区銀座6丁目2番先
東京高速道路山下ビル2階
TEL:03-6228-5863

ランチ 11:30~15:00 (L.O. 14:00)
ディナー 17:00~23:00 (L.O. 22:00)
日・祝はL.O. 21:00

近大マグロと選抜鮮魚のお造り盛り

2018年(平成30年)2月に「持続可能な水産養殖のための種苗認証制度(SCSA認証)」を取得しました。

「いのちの博物館」

OPEN

日和山海岸ミュージアム

HIYORIYAMA COAST MUSEUM

城崎マリンワールド

いのちをつなぐ企業

株式会社アクアテイメント

aquataiment

06-6955-9681

info@aquataiment.jp

代表 松前(西林) 水産学科2005年卒業



私が株式会社美十という京都に本社を構えるお菓子の会社で勤め始め、今年で3年目になります。美十は「おたべ」や「京ばあむ」を代表とする観光土産を扱う会社で、私は人事部に所属しています。1年目は総務課として給与計算や社内イベントなどの業務を、2年目以降は教育課として研修の企画、運営を中心に資格管理など人材育成を目的に勤務しています。研修の企画は時代の流れや会社の方針、社員の情報を踏まえることでより効果的に行えるのですが、そこが難しく苦戦する部分でもありそして面白い部分だとも感じています。会社を動かすのは人ですから人材の成長



0.6、000トンにもなり、横浜冷凍の倉庫の中でもトップクラスになります。そのため毎日忙しく、気温が18℃以下の現場でフォークリフトを乗り回すことに嫌気がさすこともあります。やりがいも大きく、日本の食品流通を支えるエキスパートとして頑張っていきたいと思っています。

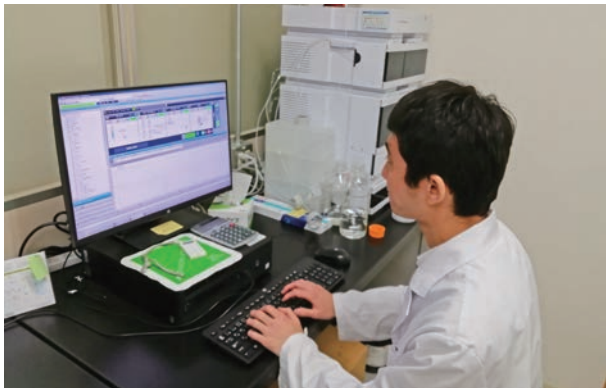
私は2016年4月から食品卸売会社の横浜冷凍株式会社に勤めています。横浜冷凍は主に冷凍食品の輸出・国内販売を行う食品販売と、国内外の冷凍食品を保管・配送を行う冷蔵倉庫の2つの事業で構成されており、私は冷蔵倉庫事業で仕事をしています。私が働くセンターは港に隣接している港湾型倉庫と呼ばれる、外国から輸入されてくる牛肉・豚肉・鶏肉などの畜産品や、海老・サバ・赤魚といった水産品が多く保管されています。これら大量の食材が首都圏の食品メーカーや加工会社、魚市場に向けて運ばれ、最終的に消費者の方々に届きます。毎月保管・配送される食材の量は平均5、50

私は2016年4月から食品卸売会社の横浜冷凍株式会社に勤めています。横浜冷凍は主に冷凍食品の輸出・国内販売を行う食品販売と、国内外の冷凍食品を保管・配送を行う冷蔵倉庫の2つの事業で構成されており、私は冷蔵倉庫事業で仕事をしています。私が働くセンターは港に隣接している港湾型倉庫と呼ばれる、外国から輸入されてくる牛肉・豚肉・鶏肉などの畜産品や、海老・サバ・赤魚といった水産品が多く保管されています。これら大量の食材が首都圏の食品メーカーや加工会社、魚市場に向けて運ばれ、最終的に消費者の方々に届きます。毎月保管・配送される食材の量は平均5、50



食品流通のエキスパートとして
水産学科(平成28年度卒)
浅田 誠

に繋がる研修を行うため、自分が持つものを最大限に利用し、働く人、ひいては美味しいお菓子を食べて下さるお客様の喜びに繋がるよう日々研鑽して取り組んでいます。会社を支える一人として、従業員からお客様、お客様から従業員と喜びを循環させることが出来る会社に誇りを持ち働いています。



科学と法律の橋渡し
農学研究科応用生命化学専攻(平成28年度卒)
村上 浩規

こんにちは。株式会社ミリオナ化粧品(株)の村上浩規です。私は企画開発部事業課に所属しています。商品の容器や広告に記載される文章が「法律に則って正しく表記されているか」を校正する業務をしています。化粧品(化粧品)の「薬機法」(景表法「特商法」などの法律で規制されており、一歩間違えると、商品



的、科学的に正しいか」という視点がとても大事だからです。在学生の皆さんも、是非何かに一生懸命打ち込んでください。辛いことがあっても、その中に楽しさを感じることができれば、それは本当に自分ができることだと思えます。頑張った経験は、きっと自分を支える自信になります。

商品開発の仕事は、商品の品質設計だけではなく、原料の選定、コスト試算、保存性の確認、工業化まで多岐に渡ります。ピーカローレットではコンセプトに合った良い品質のものができたとしても、工業化させるとなると一筋縄ではいきません。例えば、コストが合わない、保存中に著しく劣化してしまう、工場の大ロットで製造すると設計通りの品質にできない等々。出てくる多くの課題に対して、同じチー



私は大学を卒業後、食品メーカーであるフジッコ株式会社へ入社し、現在は商品開発部で惣菜の開発を担当しています。商品開発の仕事は、商品の品質設計だけではなく、原料の選定、コスト試算、保存性の確認、工業化まで多岐に渡ります。ピーカローレットではコンセプトに合った良い品質のものができたとしても、工業化させるとなると一筋縄ではいきません。例えば、コストが合わない、保存中に著しく劣化してしまう、工場の大ロットで製造すると設計通りの品質にできない等々。出てくる多くの課題に対して、同じチー

食品メーカーに勤めて
食品栄養学科(平成26年度卒)
清水 美紗

商品開発の仕事は学生時代に想像していたよりもずっと多くの知識や技術が必要で、まだまだ知識や経験の不足を痛感する毎日ですが、これからは「こんな商品が欲しい」と思っていただけのような商品を開発していきたいです。入社してから、環境アセスメントの知識が足りず、自分の未熟さを痛感しました。しかし、上司や先輩方にご指導頂きながら日々の業務を行い、少しずつ知識が身についたと実感しています。



私は平成30年3月に卒業し、オリエンタルコンサルタンツに入社し、2年目を迎えています。私が勤務する会社では、総合建設コンサルタントとして橋梁・道路・トンネル・交通・河川・環境・景観・都市地域・マネジメントなど広範な分野にわたって業務を展開しています。その中でも私は主に環境アセスメント業務に携わっており、大気汚染、騒音振動、動植物など多面的に環境影響評価を行なっています。

理想の技術者を目指して
環境管理学科(平成29年度卒)
高保 美咲



私は、2019年4月から医薬品・医療機器メーカーで営業職として働いています。現在、12月に行われるMR認定試験の合格を目指し、勉強に励んでいます。医薬品の営業職はMR(医薬情報担当者)と呼ばれます。

患者さんのために医療従事者の方に適切な情報を提供しなければならぬため、疾病やそれに対する治療法など専門性の高い知識がMRには求められます。また、それだけでなく情報を的確に伝えることも重要となります。そのため、プレゼンの仕方と同時に学んでいます。相手の方に合わせた声の大きさ、間の取り方、特に必要な情報を短く

まとめ話をすることは重要であり、常に相手の事を考えて話す必要があると思います。まだまだ、勉強中の私ですが8月ごろからは各支店に配属され、実際に先輩と病院をまわるなど、より実践的な内容となります。人の命に関わるといふ自覚を持ち、これからも勉学に励んでいきたいと思っています。

近畿大学校友会 食品支部 会員募集中!

— 支部概要 —
設立 平成26年6月7日
支部長 岡野 邦男
年会費 10,000円
会員数 114名 (令和元年5月14日現在)
連絡先
【事務局】
立花容器株式会社
岡山県小田郡矢掛町浅海385-1
TEL 0866-82-3300

食品支部は、食品関連産業に従事する近畿大学校友会によって組織された『母校近畿大学の発展、会員相互の親睦と学びあい、ビジネスチャンスの繋ぎ』を目的とした校友会専門職支部です。
食品メーカーだけでなく、広く全国の農林水産業・飲食・小売・流通・機械・設備・梱包資材等、食品産業全般から参加を募っております。

総会や例会、研修旅行を通じて信頼関係を高めつつ、多様なビジネスチャンスへ繋げていきましょう! 校友の皆様のご参加を心よりお待ちしております。



第七回総会 2019年6月2日
近大 東大坂キャンパスにおいて、44名のご出席を頂き開催致しました。
水産養殖種苗センター 教授 瀬尾重治様にご講演頂きました。



在学生だより

研究生活を通じて

農業生産科学科
園芸植物学研究室4年生
森 菜美子

私は現在、卒業論文に向けて、日々充実した研究生活を送っています。私の所属している園芸植物学研究室ではマンゴーやトウガラシなどに関する研究が盛んに行われていますが、私は将来的な品種改良を視野に入れたトウガラシのウイルス耐病性について研究を進めています。研究室に関する様々な方々とのやり取りや研究の取り組みを通じて、自分自身の様々な課題が見え

夢であったイルカの研究

水産学科
海棲哺乳類学研究室4年生
長谷川 雛

私は今、長年の夢であったイルカの研究をしています。初めてイロワケイルカを見た際に一目惚れし、研究対象とすることを決めました。現在イロワケイルカは全国2館で計7頭しかいない希少な種です。そのため、ほぼ研究がされておらず、未知なことのほうが多くあります。その中でも私は繁殖行動について興味を持ち、焦点を当てました。繁殖期は4〜7月、研究室に配属されてからすぐに動き始め



てきたのと同時に、色々な可能性も見えてきました。もっと学びたい、さらに、人として成長したいと思うようになり、大学院に進学したいと思うようになりました。また、研究は一筋縄では行かないことも多く、自身の限界と向き合うべき時が来ると思うと、不安でもありますが、研究を通して自分が成長するだけでなく、少しでも世の中のためになるような結果を残せたらいいなと、熱心な先生方や優秀な先輩方の元、同じ志をもつ同級生と共に日々研鑽を積んでいます。

また、「発情が起きているかも」という連絡を受けたらすぐに水族館へ行き、行動を目視観察しデータシートに記録をとっていました。行ってみると結局発情が弱く、行動があまり見られないこともありましたが、何度も足を運び良い結果を得ることができました。今まで一日中イルカを観察するという経験はなかったのですが、大変でしたが、好きな動物をずっと見続けるといのは幸せなことですね。私の研究が生態解明の一助となるよう今後も続けていきたいと思っています。

研究への意気込み

応用生命化学科
食糧微生物工学研究室4年生
新谷 春花

近畿大学に入学してから4年目になりました。大学生活にも慣れ、日々楽しく過ごしています。大学生になった時の私の目標は、良い成績をとって4年生まで特待生でいること、きのこについて学ぶことでした。ひとつめの目標は達成しましたが、周りの人の助けがなければ不可能だったと思うので、とても感謝しています。ふたつめの目標はまだまだこれから、という感じです。きのこに興味があり応用生命化学科に入学し、4年目の今研究が始まるころです。この3年間は、きのこ検定を1級まで取ったり、きのこに関するイベントに参加したりと、ゆるく楽しくきのこについて学びました。これから先きのこに関する研究をするので、頑張りたいと思っています。



大学生活での出会い

食品栄養学科
給食経営管理学科研究室4年生
北田 真珠

大学に入学してからたくさんの出会いがありました。また、大好きな友人や尊敬する先生がいて、高校までとはまた違う沢山の新しい経験をしました。たとえば、大学を代表して料理コンテストに出て入賞したり、奈良中央卸売市場でオリジナル料理を販売したり、近畿大病院や奈良病院で小児病棟のイベントに参加したり、あるいは自分たちが考えたレシピを実際に患者様に提供して頂いたり。このような経験を通して、食事を食べていただく喜びを知りました。そんな中で、将来の自分を見つめる出会いもありました。それは、3回生の夏休みに行われた管理栄養士の

臨地実習のことです。私は高齢者介護施設に行くことになりました。しかし、その時はまだ介護の仕事には全く興味がありませんでした。ところが、実習を通して様々なことを学んでいく中で、今まで自分が持っていた介護に対する概念がひっくり返され、もしかしらそれが自分にとって天職ではないかと思うくらい魅了されました。そして、嬉しいことに就職も高齢者施設に決まりました。

食品栄養学科で得た友人や学びはかけがえのないものであり、中でも私の人生を大きく変えてくれた様々な出会いには心から感謝しています。今後は、この出会いから得た多くのことがらを社会に還元できる人になりたいと思っています。



大学で学んだ経験を活かして将来は就農へ

環境管理学科
里山生態学研究室4年生
森田 泰志

環境管理学科では多面的な角度から自然環境を見ることで、講義や実習を受けて、自然に関わるにはそのような見方が重要であると少しずつ感じるようになっていきました。動物を取り巻く環境に関心を持つようになり、いつしか自分の中の環境意識というもの根付いてきたことを感じるようになりました。そんな時にある農家さんとの出会い、自然と人間との関わり方を学ぶ機会がありました。近年は自然との関わりが不透明になり、私たちが周囲の自然環境に支えられていることを自覚することがなくなってきたと思います。この機会から将来林業、農業をしたいと考えてようになりました。そのうえで卒業研究では動物に関する研究をしたいと考え、ノートリアが河川に与える影響について調べていく予定です。大学生活の中でさまざまなことに出会い、学ぶことで自分がすべきことを見つけることができ、感謝し、これから自分の夢に向かって進んでいきたいと思っています。

新たな目標に向かって

バイオサイエンス学科
植物分子生物学研究室4年生
川本 芽美

私は大学生になってから、いろんな事に取り組んできました。その中の一つに、小学生の頃から続けているバレエがあります。必要な単位を3年生までに取得するとともに一週間のスケジュールを考えてバレエの練習に取り組みました。発表会で私のバレエ姿を大学の友人に披露できた事は良い思い出です。また、アルバイトでおこづかいを稼ぎ、バイクの免許も取得しました。夏休みには、アメリカに語学留学にも行きました。とにかく、非常に充実した3年間を過ごすことが出来ました。4年生になって研究室に配属されると研究が楽しくなり、今では大好きだったバレエも辞めて、卒業研究と大学院進学に向けた勉強に励んでいます。毎日、友人とお昼ごはんを一緒に食べながら他愛のない話をする一方で、研究に取り組んでいる友人の姿を見ては「自分ももっと頑張ろう」とやる気ももたっています。これから先、不安な事も出てくると思いますが、学生生活に悔いが残らないように突っ走りたいと思っています。



緑友会へのご寄付お願い

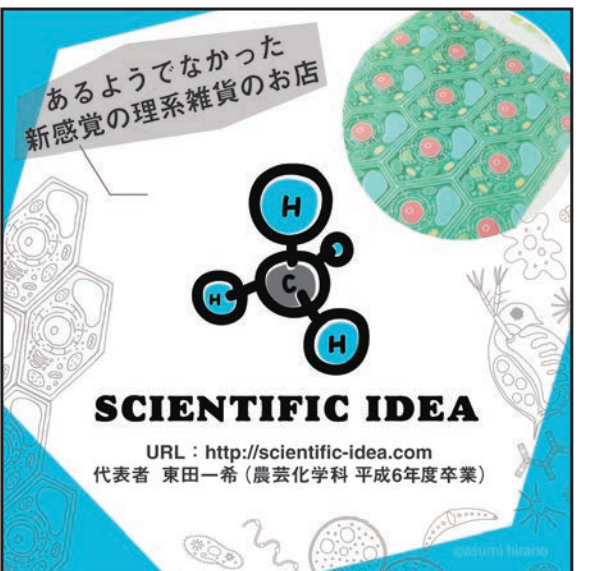
このたび緑友会は、会報発行をはじめ卒業生名簿の管理、緑友会賞の授与などの緑友会活動のさらなる活動充実の為の原資として卒業生のみみなさまに寄付をお願いする次第です。経済状況が厳しい折に誠に恐縮でございますが、緑友会の現状をご理解頂き、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。なお寄付金は一口5,000円とさせて頂き、お一人様の上限はございません。お振り込みの際には、氏名、卒業年度を合わせてお知らせ頂きますようお願い申し上げます。(お手数ですが、お振り込み後にお電話またはメールで、ご住所、お名前、卒業年度をお知らせ頂ければ幸いです)

〇振込口座〇
三菱東京UFJ銀行
富雄出張所
普通 3574857
近畿大学農学部 緑友会

〇連絡先〇
近畿大学農学部
緑友会事務局
電話 0742-43-7273 (2030)
E-mail ryokujim@nara.kindai.ac.jp

寄付者芳名一覧 (2018年度ご寄付分)
田名瀬英明 様 (昭和38年度 水産学科)
橋本 喜一 様 (昭和47年度 食品栄養学科)
校友会 食品支部 李忠儒 様

ご協力ありがとうございます。
今後も会員相互の親睦を深め母校の発展に寄与して参りたいと考えております。どうかご支援賜りますようお願い申し上げます。
(注) 公開をご希望されない方については、掲載していません。



大学院生だより

大学院生と学部生の違い

農業生産科学専攻博士前期課程
園芸植物学研究室
芦谷 武司

私の研究室ではマンゴーの花成をテーマに研究を行っており、マンゴーの花成メカニズムを解明することで新しい作型を開発し、お歳暮時期に販売することを目標としています。私自身は栄養生長に関与する遺伝子の解明を軸に研究を行っています。

大学院生と学部生の違いとして、日々の生活が研究主体になり、より積極性を求められる点があると思います。ただ与えられたことをやるだけではなく、自分に足りない知識や考えを自分から吸収していく必要があります。大学院の授業では学会を想定した授業が多いので、説明力や質問力が試されます。また、学部生や研究室の運営のサポートを任されることもあり、自身の力不足を感じることは多々あります。

しかし、そういった中でも先生方や先輩方、同期や後輩ら、他研究室の方々から様々なご助言やご指摘をいただける園芸植物学研究室では、とても楽しく日々精進することが出来ます。このような機会を与えてもらったことに感謝しつつ、これからもより一層精進していきます。



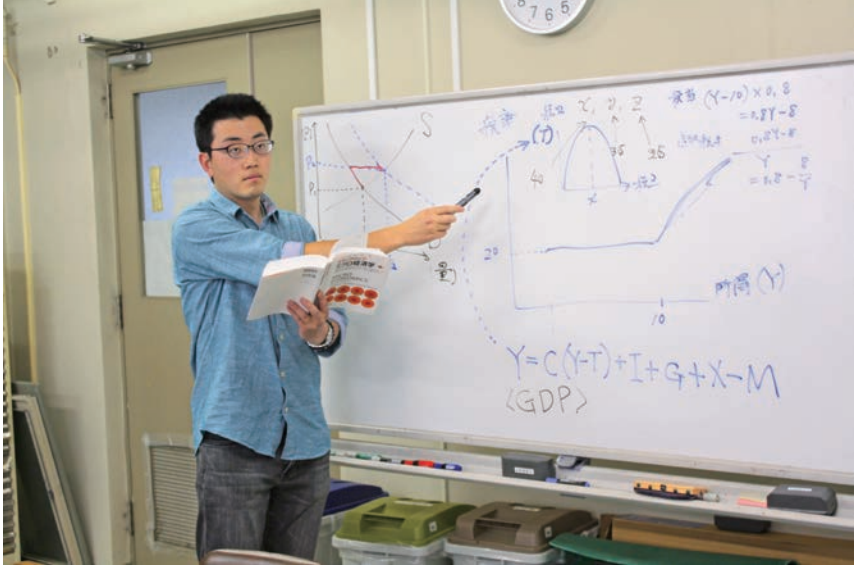
私が大学院へ進んだ理由(わけ)

水産学専攻博士前期課程
水産経済学研究室
澁武 宏和

私が大学院に進学した理由は大きく分けて2つあります。

1つ目は大学4年間で培った水産学の知識をより深く身につけ専門性を高めたいという意欲が年々高まったからです。私はもともと工学部志望であり、水産知識皆無でこの大学に入りました。当初は様々な葛藤と向き合いながら大学生活を過ごしていましたが、家族や友達を支えることができた壁を乗り越えることで新たな自分の姿を発見でき、勉学の意欲がよりいっそう高まりました。

2つ目は自分自身の「武器」となるものを増やしたい



学部生から院生に

応用生命化学専攻博士前期課程
応用微生物学研究室
加塩 健悟

私は、学部4年時は就職活動に励み、企業から内定を頂くこともできました。しかし、研究活動を進めていく中で、未解明のことを自ら明らかにしていくことの楽しさを知り、より多くのことを解明していきたいという思いが強くなりました。そのため、頂いた内定も辞退し、大学院に進学することを決めました。

私は現在、好熱性細菌由来の酵素を用いて研究活動に取り組んでいます。この酵素は好熱性細菌由来であるため、耐熱性に優れており、産業用の酵素として可能性を秘めています。この酵素の性質を知るためにも、タンパク質の結晶化を行い、立体構造を明らかにすることを目的に研究を行っています。

大学院では、今まで以上に研究活動に熱心に取り組むことはもちろんのこと、研究の成果を多くの人に知ってもらうためにも、学会等にも参加したいと思っています。また、就職活動を経験したことなども活かして、大学院生活を計画的に送っていきたいと考えています。

新しい旅立ち

応用生命化学専攻博士前期課程
公衆栄養学研究室
本庄 智貴

私が大学院への進学を決意したのは大学3年生になってからでした。食品に興味があった食品栄養学科へ入学しましたが、この時は大学院へ進学しているとは思っていませんでした。しかしマイキャンパスプランの担当の先生が担任の先生で、その時に研究の楽しさや現在行っている研究の面白さを教えていただいた。研究を深めていきたい」「自分で調べてみたい」と思い進学を決意しました。

私は現在、潰瘍性大腸炎という特定疾患に関する研究を行っています。配属時は先輩の下について様々な事を学ばせていただきましたが、今では先輩ができて、自分が教えていかなければならない立場を痛感しています。院生として、1つの物事に対して様々な視点から考察していくといった幅広い考え方の重要性を感じています。難しい事ですが、自分としてはとても良い機会だと思っています。これから、悔いのないよう頑張っていきたいです。



大学院生となった

環境管理学専攻博士前期課程
自然資源管理学研究室
奥芝 理那

私は学部生のときに、奈良県の公募事業である「県内大学生が創る奈良の未来事業」で事業予算を獲得し、平成30年度から中高生に森林環境教育を行ってきました。森林について学ぶ機会の少ない中高生に対して大学生が中心となり森林環境教育を行うという事業です。卒業論文ではこの事業を題材に、中高生を対象とした森林環境教育のプログラムモデルを設計し、それを実行・評価しました。研究を進めるうちに多くの発見や課題が視えてきました。その課題に向き合いたい、この研究をもっと深めたいと思い大学院の進学を決意しました。大学院でも引き続き、森林環境教育プログラムモデルの実行と改善に努め、奈良県の中高生においてより効果的な森林環境教育のプログラムモデルを提案したいと考えています。

短い大学院生活の中で、尊敬する先生にご指導いただきながら研究を深めることは勿論のこと、自分自身の成長へとつなげられるよう邁進していきたいです。

文武両道を目指して

バイオサイエンス博士前期課程
動物分子遺伝学研究室
東本 寿克

『文武両道』：僕がこの言葉に出会ったのは高校生の時でした。現在私は、大学院生という立場ながら陸上競技部に所属し、競技者として能力の向上を目指し日々練習を行っています。日々の実験計画や時間の使い方が委ねられている中で隙間の時間に練習し、インカレに出場するなど、同年度の学生と比べるとかなり異質な学生生活を送っています。研究と陸上競技、二足の草鞋をはいて生活を送る中で苦しいと感じたり、一方がおろそかになってしまいうということがあります。

一つに絞ったほうが良いのでは？と競技を続けるか迷った。自分はだめだと嫌悪する日もありましたが、『文武両道』に近づいている実感を得るたびに、大きな充実感を感じることが出来ました。正直、研究も陸上もまだまだではあります。このスタンスを認め、後押ししてくださる先生はじめ研究室のメンバーに感謝して残りの大学院生活を自分のスタイルにこだわってやっていきたいと思っています。

バンクーバーでの在外研究
食品栄養学科
講師 明神 千穂



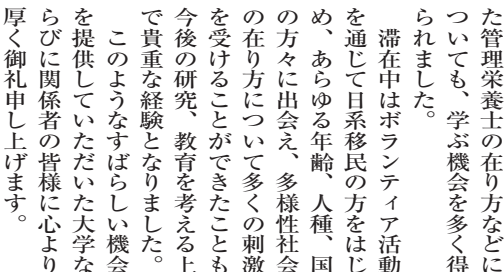
2017年度の在外研究員として9月から翌年8月まで、カナダの西の玄関口であるバンクーバーにある、ブリテッシュ・コロンビア大学は行かせていただきました。バンクーバーは海や山に囲まれた緑溢れる街で、自然と都市が融合した魅力的な都市となります。その中にあるブリテッシュ・コロンビア大学は、総勢5万人の学生が通う西部カナダ最大の研究総合大学で、研究、教育の水準も非常に高く、カナダ随一の美しいキャンパスを持つ大学となります。私は、Faculty of land and food systems (資源・食糧システム学部)のBlack博士のPublic Health & Urban Nutrition Research Groupに

所属し、ゼミや研究室の行事等に参加させてもらっており、研究は「21」博士とともに本学部の学生を対象に通年開講されている講義内で、日本のお弁当を題材にしたアクティブラーニングを用いた栄養教育プログラムを導入するための介入調査を行いました。事前調査として、授業を聴講したり、昼食時にキャンパス内や周辺で学生の昼食を観察調査したりと、研究室外での活動が非常に多くありました。

さらに私が所属していた学科には管理栄養士専攻課程があったことから、カナダで管理栄養士を目指す学生や、病院、行政、高齢者施設などの現場で働く管理栄養士との交流を持ち、移民が多いカナダでの多文化主義社会に対応した管理栄養士の在り方などについても、学ぶ機会を多く得られました。

滞在中はボランティア活動を通じて日系移民の方をはじめ、あらゆる年齢、人種、国の方々に出会え、多様性社会の在り方について多くの刺激を受けることができたことも、今後の研究、教育を考える上で貴重な経験となりました。

このような素晴らしい機会を提供していただいた大学ならびに関係者の皆様に心より厚く御礼申し上げます。



バンクーバー初「アルツハイマーカフェ」のボランティアにて

大学構内の「UBC Rose garden」より



和田拓人 武藤隆繁 金井宏樹 東 清春 (法学部卒)

近畿大学緑友会
会員からの近況報告

昭和58年度農学部植物病理学研究室卒業

武藤 隆 繁

私は、昭和58年度（農学部植物病理学研究室）卒業生で、現在は全農秋田県本部園芸畜産部長を務めております。緑友会会報が届けられる度に、学生時代のことが大変懐かしき思い出されます。また、松田克礼会長とは、同研究室で学んだ同期生ということもあり、ことさら親しみを感じております。しかしながら当時、夢と希望に満ちて始まった大阪での学生生活は、周りに秋田県人はおろか東北人など一人もいない環境で、大変寂しい思いをしたことを記憶しております。とうとう一人も東北出身の学生と知り合うことなく卒業しました。ところが、昨年JA系統農薬メーカーで

平成30年11月3日(土)に食品栄養学科卒業生で構成される「KINKAN会」のイベントを開催致しました。今回のテーマは「管理栄養士の新しい働き方改革」です。働き方改革法案が成立し、働き方がますます多様化している今、管理栄養士としての「自分に合った働き方」に焦点をあて、卒業生の青山さんに特別講演を、更に卒業生3名の方にお仕事体験談をご講演頂きました。結婚や出産等のライフスタイルの変化や、専



第9回KINKAN会
イベントを終えて

15期生 安岡 美 総

門的な知識・技術取得のステップアップのために転職された卒業生の方々によるご講演は、「自分の理想とする働く姿」を考える貴重な時間となったのではないかと思います。

お忙しい中、ご参加下さった卒業生・在校生の皆様や学内の先生方、快く講演をお引き受け下さった卒業生の皆様、誠に有難うございました。令和元年度も同時期にKINKAN会イベントを開催します。今回は、食品栄養学科管理栄養士養成課程20周年記念として

同窓会を予定しています。詳細は、各期の運営委員より随時ご連絡致しますので、皆様ぜひともご参加ください。

— 農学部祭の案内 —

今年も毎年恒例となりました「農学部祭・飛鳥祭」の季節がやってまいりました。今年の農学部祭は11月1日(金)から11月3日(日)までの3日間開催する予定です。現在、農学部祭実行委員会や各参加団体が日々農学部祭に向け準備、活動しています。農学部祭実行委員会では今年も農学部祭の象徴であるバスロータリー側の入り口に設置する凱旋門や渡り廊下上に設置する巨大壁画の製作やステージ企画の考案に取り組み、手作り感あふれる農学部祭にすべく日々努力しています。農学部祭の構成としては、初日は在校生のみ参加する体育祭が行われ、2日目・3日目は一般の方も楽しめる文化祭が行われるという形になっています。今回の農学部祭のテーマは「宴」であり、2日間行われる文化祭の中では、毎年近大マグロの解体ショーが行われ、昨年今話題の近大マグロが無料で試食できるとあって多くの方々にお越しいただきました。その他にも、ご家族で楽しめるヒーローショーやお笑い芸人のライブ、各研究会系クラブ団体の展示会や部活や研究室で出店する模擬店など、各種イベントが目白押しである農学部生の「宴」を是非お楽しみください。卒業生の皆様方や地域住民の方々、在校生全員が楽しめる農学部祭を農学部祭実行委員会が中心となり、農学部生一丸となって作り上げていこうと思います。当日の皆様のお越しを学生一同、心よりお待ちしております。



緑友会会報原稿募集のお願い

緑友会会報は、同窓生の皆様を結びつける年に一度の会報です。できるだけたくさんの方からの寄稿をお待ちしています。原稿の形式は特に問いません。お気軽にお寄せいただければ幸いです。緑友会事務局又は、研究室の先生宛にご送付下さい。



連絡先：近畿大学農学部 緑友会事務局
〒631-8505 奈良市中町3327-204
電話 0742-43-7273 (内線2030)
メールアドレス ryokujim@nara.kindai.ac.jp

訃報

水産学科 准教授 榎彰徳先生がご逝去されました。(平成三十年十月) 国際資源管理学科 教授 高見晋一先生がご逝去されました。(平成三十年十一月) ご冥福をお祈りします。

緑友会名簿訂正(変更)届

氏名	卒業学科	年 度
所 属 研究室		
現 住 所 (〒)		
会 社 名	住 所 (〒)	
勤 務 先		

住所等間違っていた、あるいは変更がある場合、この用紙を緑友会事務局までお送りください。お電話、メールでお知らせいただいても結構です。
連絡先：〒631-8505 奈良市中町3327-204 近畿大学農学部 緑友会事務局
電話 0742-43-7273(内線2030) メールアドレス ryokujim@nara.kindai.ac.jp

平成30年度近畿大学農学部緑友会事業報告

月 日	項 目	場 所
4月10日	運営委員会	第1会議室
5月15日	終身会費納付書発送 (712通)	
6月9日	幹事会	第1会議室
	1) 平成29年度事業報告	
	2) 平成29年度決算報告	
	3) 平成30年度事業計画(案)	
	4) 平成30年度予算(案)	
	5) その他	
8月21日	終身会費納付書2回目発送 (454通)	
8月24日	在学生名簿調査完了	
9月18日	会報第23号会員へ発送	
平成31年 1月11日	終身会費納付書3回目発送 (302通)	
2月8日	終身会費未納者を6学科に通知	
3月5日	委員会	C会議室
3月19日	緑友会賞 授与	

平成30年度近畿大学農学部緑友会決算

＜卒業生部会＞ (単位：円)

収 入 の 部		支 出 の 部	
前年度繰越金	5,052,598	郵便費	1,402,134
終身会費(繰越2名分)	20,000	印刷複写費	1,456,317
終身会費	4,840,000	会議会合費	61,920
広告掲載料	100,000	人件費	996,948
会報印刷・郵送代の負担金 (学生部会より在学生分)	289,500	緑友会賞	120,000
寄 付 金(卒業生より)	45,000	雑費	102,921
利 息	50	支出の部計	4,140,240
合 計	10,347,148	次年度繰越金	6,206,908
		合 計	10,347,148

会計幹事 上田茂登子 会計幹事 武田 徹
上記のとおり、監査いたしました結果適正であります。
平成31年3月31日

監 事 小林 徹
監 事 谷 哲弥